

# あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

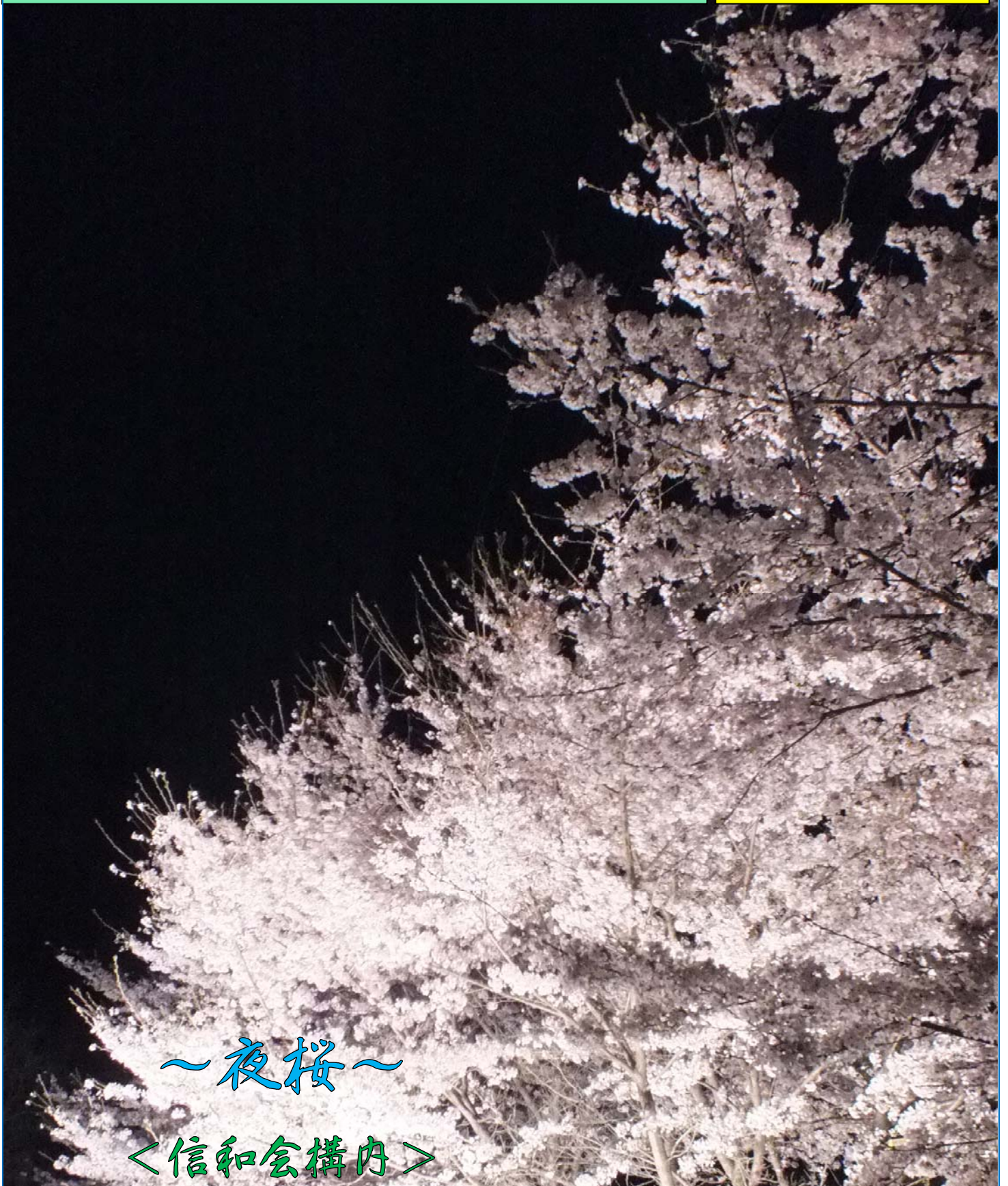
FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信

～夜桜～

<信和会構内>





# 『アフターコロナ』



社会福祉法人信和会

理事長 栗原 信

新型コロナウイルスが世界を、私たちの暮らしを揺るがしています。過去の歴史を振り返ると、人類はたびたび感染症に襲われ多くの命が失われてきました。一方で感染症の大流行は、人々の考え方や行動様式を劇的に変えるきっかけになってきました。ときには世の中の大変革や進歩、社会の改善につながったこともあります。新型コロナの終息まではまだまだ時間がかかりそうですが、過去の感染症の歴史から考えてみたいと思い調べてみました。14世紀には世界的な流行で1億人が死亡したといわれているペスト。「黒死病」と呼ばれて恐れられ人口の3分の1が亡くなった欧州では、生や死に対する価値観が揺らぎ、封建制度崩壊や新たな学問と芸術がルネッサンスを生み、教会の権威も失墜しその後の宗教改革につながったといわれています。

経済的にも大変革が起きました。中世の西ヨーロッパの農村は領主が支配する共同体で農民みんな働いて年貢の残りを分け合って生活していました。ところが、ペストで労働力が不足したため、領主は農民の意欲を上げるために土地を貸し出します。農民はそれぞれが工夫して成果を上げるようになり、これが資本主義経済につながりました。

また、今から100年前、1918～1920年に世界で流行したスペイン風邪。「インフルエンザ」は20世紀最悪のパンデミック（世界的大流行）といわれます。患者数は世界人口の25～30%、死者数は2,000万～4,000万人で5,000万人との説もあります。日本でも流行の波が3度起き、国民の4割以上が感染し40万人前後が亡くなりました。

この他にも天然痘やコレラ。最近であれば、SARSやMERsなど人類は過去から感染症と戦いながら現在までに至っています。

新型コロナが世界中で急速に広まったのは、グローバル化が進み、国境を超えた行き来が盛んになったことも大きな要因です。感染症の流行、拡大には、それぞれの時代背景が影響しています。いずれ新型コロナが終息したとしても、過去の歴史から見て、これまでの社会とはガラリと変わる面が必ず出てくると思います。緊急事態宣言で一気に広まったのが、自宅で働く「テレワーク」と学校の「オンライン」授業です。もちろん、会社や学校で顔を合わせて働いたり学んだりすることの大切さは変わりませんが、働き方も学び方も「コロナ以前」に戻ることはな

いと考えます。互いのメリットやデメリットを補うまく活用することが必要になってきます。そうなることで通勤や通学の負担が減って自宅で過ごす時間が増え、生活にゆとりが生まれるかもしれません。東京を中心とする首都圏への人口集中が続いてきましたが、「密」の回避やテレワークの普及で地方への人口分散の動きもあります。すると、新たなビジネスが生まれるかもしれません。様々な可能性を考えることが必要になるでしょう。

福祉の世界では対面が基本であることは変わりないと思いますが、今までと同じではなくやはり変わらざるを得ないと思います。当法人も昨年度からPCやタブレットの情報端末の設置やWi-Fi環境による接続環境の整備を順次行っております。今後も環境の整備に努めていきたいと考えています。今年度は得られた情報や技術をどのように活用するのかを考え、職員の業務負担の軽減、利用者の利便性の向上、サービスの質の向上につなげていけるように研究をしていきたいと思っています。その他には、新型コロナ感染症予防対策に考慮した上で法人全体施設及び地域を包括した防災対応を検討し、相互協力できる体制づくりや各事業所に配置している防災士と市との防災体制や関係機関とも連携した協力体制の構築にも努めていきたいと考えています。

最後に新型コロナウイルスにより、日々奮闘されている医療従事者の方々や採用が取り消された人々、契約を解除された契約社員、アルバイトの方々も収入の道が途絶え、いつこの悲惨な状態から解放されるのか、毎日が不安感と焦燥感でいっぱいな方も多くいると思います。しかしワクチン接種も始まりいくつかの国々では、少しずつ良くなってきています。

「明けない夜はない」という言葉通り、ずっと夜が続くわけではなく、やがて来る朝に期待して頑張っていきましょう。

本年度もどうぞよろしくお願ひ致します。



# 本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部  
〒407-0263 荳崎市穴山町 5390  
Tel.0551-25-6100  
E-mail: [honbu@sip-shinwakai.jp](mailto:honbu@sip-shinwakai.jp)



## 理事会・評議員会報告

- 開催日時 : 令和3年3月20日 (土) 11:00～  
開催場所 : 穴山の杜 会議室  
審議事項 : 第1号議案 令和2年度補正予算について  
第2号議案 令和3年度事業計画について  
第3号議案 令和3年度予算について  
第4号議案 諸規定の変更及び事業提案について



令和2年度第3回の理事会・評議員会は、前回同様コロナ禍の中感染予防のため、検温・手指及び会場消毒・会議場所の換気・出席者の座席間隔1m以上確保・短時間での開催など十分配慮して開催いたしました。

審議事項について、第1号議案では、主にICT導入やコロナ感染症予防対策助成金等の補正を提案いたしました。第2号議案では各事業所より事業計画・組織・会議体の提案、第3号議案では令和3年度の予算について提案いたしました。予算に関しては、福利厚生費の充実をというご提案もあり、今後補正等で検討させていただくこととしました。第4号議案では、旧穴山保育園跡地の入札購入報告と2事業所の規定変更を提案いたしました。4議案とも出席役員よりご承認いただきました。



## 令和3年度 学卒採用職員



令和3年度、4名の新社会人を迎えスタートしました。

### 穴山の里：生活支援員

廣瀬千笑 (長野大学卒)

社会人として未熟な私は何も出来ないことに落ち込む事があると思います。利用者のために何が出来るか、何をすべきかを考え、不安に感じたときは一人では対応せず先輩方のお力を借り一日も早く利用者一人一人に添った支援が出来るように頑張ります。常に学ぶ姿勢を忘れず勤務致しますので、よろしくお願い致します。

### 穴山の里：生活支援員

樋山慧人 (健康科学大学卒)

穴山の里生活支援員として働くこととなりました。利用者の個性が活かされ自立した生活が送れる様な支援を心掛けたいと思っています。はじめの取り組みとしては信頼関係を築くことを積極的に行い、個々を理解し適切な支援が出来るようコミュニケーションをとっていきます。今まで学んだことを基礎に施設内だけでなく地域にも貢献できる職員になれるよう頑張ります。

### 穴山の里：生活支援員

矢崎恵里佳 (帝京学園短期大学卒)

この春、社会人としての第一歩を踏み出しました。アルバイトも含め、働くということが人生初めてで緊張と不安でいっぱいです。覚えることが多く戸惑う日々が続きますが、利用者や先輩方のお役に立てるよう精進していきたいと思っています。常に笑顔を忘れずに失敗にめげず何事にもチャレンジしていきます。よろしくお願い致します。

### 穴山の杜：介護員

川窪花乃 (甲府城西高等学校卒)

私はこれから仕事をするにあたって、資格を沢山取ることと利用者にも認めてもらう事を目標に頑張っていきたいと思っています。介護福祉士の資格取得が一番大きな目標ですがPCを使用する事も好きなので関連する資格にもチャレンジし、介護技術の向上に努めます。何事にも積極的に行動し身近な存在になるよう頑張ります。



# 穴山の里

障害者支援施設 穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5164  
Tel.0551-25-5900  
E-mail : [sato@sip-shinwakai.jp](mailto:sato@sip-shinwakai.jp)



穴山公民館が文部科学省より「第73回優良公民館」として表彰されました。おめでとうございます。穴山の里の利用者、職員は文化祭・さくら祭り・サンマ祭り等の行事に出演させて頂いたり、花の谷造りやたなばた祭りを一緒に活動させて頂いています。様々な行事を通して、障がい者が地域社会に参加する機会を与えてくれています。本当にありがとうございます。受賞された公民館活動に関わることができたこと大変うれしく感じています。今後ともどうぞよろしく願います。

## 新年度を迎えて

サービス管理責任者 小林恵美香

本年度の穴山の里運営方針として、新たに「ICTの導入による業務の効率化と情報の共有化」を掲げました。具体的には、タブレット端末等を活用し、日々の業務の引き継ぎや会議等の情報及び利用者の体調等の情報もデータ化が可能となり、情報共有が瞬時に行うことが出来るようになります。また、利用者支援目標として、「身体機能の維持と向上」を主眼に進めていきます。具体的には、①利用者の高齢化に伴う身体器機能の低下を予防するため、各種機能訓練の充実を図る ②強度行動障害に対応したマニュアルに沿って、共通支援の徹底を図る ③個別支援計画の適宜見直しを図り、目標に沿った生活の実現への支援を実践していきます。

穴山の里は今年で創立35年を迎えます。この35年の中でコロナ禍の現在は、いまだかつてない大変な状況下であるかも知れませんが、各種行事やイベント等の中止、一番楽しみにしているご家族と触れ合う“一時帰省”が出来ず、寂しい想いをしていることは本当に申し訳なく思っています。いま、「コロナウイルス第4波到来か・・・」と呼ばれていますが、私たちは、日々、衛生管理等を徹底し、感染予防に努めながら、利用者皆さんの満足度の向上(CS)を目指してまいります。

### 活動班の紹介 ひだまり班

ひだまり班は、車椅子までではないが歩行するのに付き添いが必要な方など8名の班員で構成されています。活動内容は、機能訓練として口腔体操、軽体操等を取り入れています。また、認知訓練としてパズルやマッチングなどの頭を使った活動を取り入れ認知機能の低下を防ぐように努めています。また、できたばかりの班なので利用者と共に活動内容を充実していきたいと思っております。



### 奉仕活動 ウッドペッカー



3月18日、北杜市内にあるウッドペッカーキャンプ場へ行き、キャンプ場内の整備活動を行いました。作業は主に落ち葉や木の枝などを拾い集めています。キャンプ場のオーナーさんたちと一緒に協力し一生涯懸命環境整備を行いました。



## なかよし会年度末総会



3月27日に行った年度末総会では、2年度の目標の反省と3年度の目標決めを行いました。皆さんに尋ねながら、2年度守れなかったと話していた目標は3年度も継続すると決めました。また、3年度のなかよし会役員を決め、抱負を発表しました。

最後に2年度なかよし会の運営に携わった役員に全員で感謝を伝えました。新年度もなかよし会が中心となって施設の行事を盛り上げていきたいと思っております。

主な目標 仲良くする、廊下を走らない、トイレのマナーを守る などです。

# 穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜  
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390  
TEL0551-25-6100  
E-mail : [mori@sip-shinwakai.jp](mailto:mori@sip-shinwakai.jp)



この地（穴山）では季節の移り変わりが敏感に感じられます。特に甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山の山脈みの季節ごとの変化は、長年ここで生活していても改めてその美しさに目を奪われます。この風景、新府・穴山から長坂のあいだでの山容は特に素晴らしい景観です。残雪の山々を背景にして桃の花、菜の花との風景は各地から多くの画家、写真家が訪れ毎年にごわっています。施設の周りに植えた100本を超える桜も年々樹勢を増し見ごたえのある木々になりました。サクラの季節には、サクラ見物方々施設にお出でかけください。



## 介護部副部長に昇進して

介護部副部長 小尾美香

この度、大役を任せていただく事になり、責任の重さに身の引き締まる思いです。今まで以上に変な事もあるかもしれませんが、不安に感じる事もあると思いますが、自分ひとりが頑張るのではなく、皆に支えてもらい共に頑張っていきたいと思います。介護はチームケアであり、皆が同じ方向を見ていないと良いケアが出来ません。それぞれの知識や技術を共有し、職員一人一人のストレングスを活かし、利用者へ良いケアを提供出来る様にお互い切磋琢磨し向上していけるように努めます。今まで行ってきたオムツ外しやユニットケア、5つのゼロ活動をこれからも継続し、個々に特化した支援ができるように進めてまいります。よろしく願いいたします。



## 10年を振り返り

鶴3丁目ユニットリーダー 渡井紀之

〈ガタガタガタガタ…〉「大丈夫ですから皆さん落ち着いて下さい。」

2011年3月11日、私は穴山の里の食堂で、まだ名前と顔が一致しない利用者と共にあの東日本大震災を経験しました。自分でも驚くほど冷静であり、とにかく利用者を窓から遠いところへ避難させようと必死だった事をはっきりと覚えています。思えば、穴山の里に就職して最初の大仕事でした。あれから10年が経ち、今も信和会の一員として働いている事は、理事長、会長夫妻、穴山の杜の施設長をはじめとして、職員仲間の皆様の支えと協力があったからこそと感謝しております。

東日本大震災では、まだ福祉の右も左も分からない新参者である私をボランティアとして現地へ派遣して頂き、がれき撤去を行って来ました。10年経った今も、あの時の被災者の涙と汚泥の臭いは鮮明に覚えており、私の福祉の原点となっております。その後、穴山の里では6年お世話になり、7年目に特別養護老人ホーム穴山の杜へと異動となりました。心機一転、障がい福祉とは異なる点もあり戸惑う事も多かったのですが、良き先輩達に恵まれた確かなアドバイスを頂き4年目を迎える事となりました。これからも利用者の事を第一に考えていき、高齢者や障がい者との懸け橋になれる存在になるよう精進していきます。



124年ぶりに節分となった今年の2月2日。ボランティア団体「ロバとウサギの会」の角井節子様、“折り紙鬼さん”を届けてくれました。毎月慰問に来ていただいていましたが、コロナウイルスの影響で中止されている中、楽しんでもらえればと、一人に一つずつ手作りして下さいました！ 折り紙鬼さんにチョコレートを入れ、おや

以前利用していただいていた方のご家族、石井紀代美様が手作りののつるし雛を寄付して下さいました。人形は一つ一つ丁寧に可愛らしく作られており、ずっと眺めていたくなります。手に取り近くで見つめ「可愛いじゃんね」と楽しまれています。ありがとうございました！



つの時間に食べました。食べ終わった後も、テーブルに飾り、今でも眺めて楽しんでいられる方もいます。ありがとうございました！



2月4日 公益財団法人山日 YBS 厚生文化事業団様より、車いす1台をご寄付いただきました。有意義に活用させていただきますとともに、貴重な善意に感謝いたします。

3月3日に“喫茶店”がオープンしました！ ひな飾りを眺めながら、可愛らしい見た目のひな祭りケーキや良い香りの珈琲を味わいました。顔なじみの方、他ユニットの方や職員と話しも盛り上がります。感染予防により、久しぶりの実施となり、利用者も職員も大変嬉しいひとときとなりました。



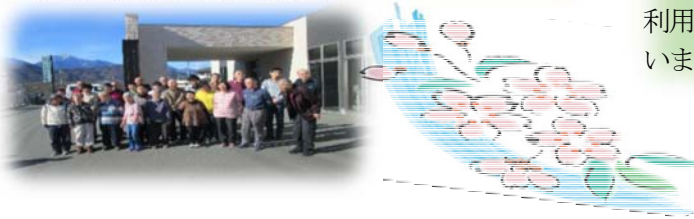
# わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1  
TEL : 0551-25-5866  
E-mail : [work@sip-shinwakai.jp](mailto:work@sip-shinwakai.jp)



## ～新年度のご挨拶～

ここ数年、障害サービス事業の転換期を迎えておりますが、わ〜く穴山の里では利用者の日々の生活を営む上で必要な社会資源という役割担うために、親亡き後に向けた取り組み、工賃向上、次のステップに繋ぐことに重点を置いた事業展開をしております。



## 就労継続支援B型 平均工賃月額

新聞記事やテレビで特集が組まれるほど注目され始めてきた平均工賃月額。就労継続支援B型事業所が毎月利用者にお支払いする工賃の平均額です。全国平均は16,000円台ですが、わ〜く穴山の里は、令和2年度31,054円となりました。企業様はもちろん、職員の取り組み、そして何より利用者の頑張りによって、毎年確実に工賃アップに繋がっています。



## わ〜く穴山の里と共同生活事業 ～地域参加への道～

韮崎市内にある旅館様より環境と感染症対策に配慮したアイデアを仕事に取り入れたいとの話をいただきました。旅館のお客様が使うスリッパ入れを新聞紙で作る取り組みです。多くの利用者が休み時間や休日の余暇時間で携わっています。糊を使わず100%リサイクルでき、地域の繋がりの中で生み出されている点が評価され「山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト」のプラスチックごみ削減へのライフスタイルアイデアで会長賞をいただきました。



# 共同生活事業所

共同生活事業所 (わ〜く穴山の里内)  
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1  
TEL : 0551-25-5866



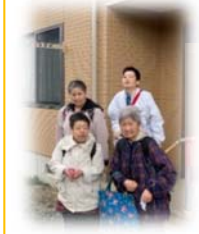
## R3年度が始まりました!!

各GH・CHの編成替えが行われ、NEWメンバーになりました。

かやの木ハイツ



あなやまハイツ



お花見に行きました♡



## 出会いと別れの季節...

新しい仲間が加わりました。  
施設入所穴山の里から、共同生活に地域移行しました。



世話人。  
17年間にわたり勤務して頂きました。長い間お世話になりありがとうございます御座いました!!!!



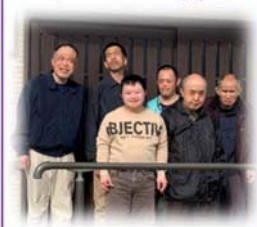
くぼでら荘



第2あなやまハイツ



ケアホーム宿尻





# 穴山の杜短期

穴山の杜 短期入所生活介護事業所  
〒407-0263 菟崎市穴山町 4410-3  
TEL : 0551-25-0800



## 6年目を迎えて



春光うらかな季節を迎える4月1日、6年目に向け新しいスタートを切りました。昼には毎年お楽しみ『お祝い海鮮ちらし』を食べました。コロナ禍で外食も出来ないため、『お寿司は久しぶり!!』『マグロが美味しい!!』などと大変喜ばれ、完食されました。中にはお酒をたしなむ方もおり、終始笑顔。午後は抹茶を点ててお茶会をし、皆で施設の誕生日を祝いました。



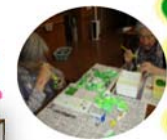
# 梅



創作活動で一足早くホールには、梅や桜の花が華やかに咲き誇りました。梅はスポンジに色を付けて思い思いに枝に咲かせました。桜はトイレトペーパーの芯を利用して花びらを作成しました。その数は、なんと200にもなります。同じピンクの花びらの色塗りにも個性が出ていました。作品は施設前の展示スペースに飾ってあります。



# 桜



# さくら

相談事業所 さくら  
〒407-0263 菟崎市穴山町 4914-1  
TEL : 0551-45-7710



## 報酬の拡充!

従来評価されていなかった  
相談支援の新たな評価

### 支給決定前

【初期加算の拡充】300単位/月  
利用開始前に、居宅等を訪問し、  
月2回以上の面接

### 障害福祉サービス利用期間中

【集中支援加算の新設】各300単位  
① 居宅等を訪問し月2回以上の面接  
② サービス担当者会議の開催  
③ 他機関の主催する会議への参加

### サービス終了前後

【居宅介護支援事業所等の連携加算の拡充】300単位  
① 居宅等を訪問し月2回以上の面接  
② 他機関の主催する会議への参加  
③ 他機関への書面による情報提供



この事業がスタートし、早いもので今年7月で9年目に入ります。これまでに沢山の「学び」と「人と人とのつながり」を得ることが出来ました。

依然として『一人相談員』で進めていますが、今年度の主な改正内容は【質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直し】であり、基本報酬の充実・従来評価されていなかった相談支援業務の評価等が盛り込まれています。昨年度までにも【事業所加算】として相談員の人数については謳われていましたが、やはり根底には「相談支援専門員の人数を増やし、事業の拡充を図ること」があげられています。

そこで今「さくら」に必要なことは「相談支援専門員」の資格を取得したスタッフを増やし、『一人相談員』を脱することです。そのため、今年度から資格取得に向けた働きかけを法人内各事業所にしていきます。私一人では抱える利用者の人数に限界が生まれつつあります。今のリズムを崩さず、次のステップに向けて有資格者を増やすこと。その結果、これまで一人で見てきた地域のニーズも多くの目で見つめることができるようになります。そして新たな視点で見つめることで、違った景色が生まれるかもしれません。これからの相談支援の事業そのものに展開が図れることを期待して、今年度も踏み出してまいります。

## 感謝録

(令和2年12月16日から令和3年3月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

仲二見金男・古内保明・五十嵐みさ・相川隆英・深沢淑子・  
角井節子・石井紀代美・対馬清子・フードバンク山梨・  
公益財団法人山日YBS厚生文化事業団

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

飯野祐子 (書道)

## 訪問録

(令和2年12月16日から令和3年3月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎帝京科学大学

坂本枝梨

◎帝京学園短期大学

興石萌歌・林 風花

◎日建学院

加賀美清美

金城パトリシア

## 令和3年度 辞令交付式

令和3年度辞令交付式が学卒者4名を迎え挙行致しました。  
理事長より採用者・昇格者一人一人に辞令が交付され身の引き締まる思いを  
感じることが出来ました。新入職員を代表して廣瀬千笑さんが決意を表明し、  
社会人として、信和会の一員としてのスタートを切りました。

また、同時に開催された勤続表彰では4名の職員に永年に渡り勤務され  
たご苦労と感謝を込めて賞状並びに記念品の贈呈を行いました。受賞されました皆さんおめでとうございます。



## 令和3年度 研修会



辞令交付に続き、新人職員は早速研修に入りました。

理事長より基本理念についての講話のあと本格的な研修に取り組みました。

<学生と社会人><学校と会社> まずは気持ちの入れ替えからスタートです。社会人として大切なひとつとして「報・連・相」と「PDCAサイクルの活用」があります。高齢者に関わる中での言葉遣いについて研修では即席の甲州弁講座も開催しました。敬語の使い方は身につけていましたが、方言を用いることで利用者との距離感もグッと縮めることが出来ます。

初級編 いっちもうへえる

中級編 こてっさら

ぶちやーる

上級編 ももっちい つっぺえる

超上級編 おんのぶんくりょう さあえべし

辞書に載っていない言葉に苦慮する場面もありました

初めての事ばかりで、戸惑いも多い時間でしたが、一つ一つ積み上げて頑張っていました。



## 編集後記



今年の桜の開花は早かったですね！年度末の慌ただしいときと重なり、あっという間に満開となり散ってしまった感じです。それでも4月1日の辞令交付式に穴山の桜はなんとか持ちこたえてくれました。機関紙が皆様のお手に届くころには新府の桃の花も散ってしまっているかもしれません。

コロナの第4波と言われるように感染者が増加しておりますが、韮崎市から高齢者へのワクチン接種説明会もあり、5月連休明けには実施されそうです。早く通り過ぎて行った春の訪れのように、長いコロナ禍から波のない穏やかな日々が早く迎えられるように願っています。(T・F)